





最優秀グランプリ賞 つきじ喜代村すしざんまい(鮪のづけ丼) (左から2人目)

⇒津波の被害が大きかった被災地沿岸部では日常陸上げされていた魚介類を食べる機会が減った。そこでマグロづけ丼を提供し被災地の方々に勇気づけた。またマグロの解体ショー等のイベントは見るもの全ての方々に楽しい思い出を刻んだ。

優秀グランプリ賞 結まーる(沖縄そば) (一番右)

⇒震災後、簡便で調理提供スピードの早い麺類の炊き出し頻度が被災地で多かったため、被災地の方々が麺類に対して『飽き』が来ていた。そんな中、沖縄そばは被災地の方々に新鮮で食べた満足感も大きかった。

優秀グランプリ賞 甲信食糧株式会社(山梨ほうとう) (右から二人目)

⇒震災後、飲料水の確保に被災地は苦労したが、その背景を鑑み、水洗いの必要のない再使用容器を採用するなど工夫が見られた。またほうとう料理のホットメニューが寒空の中の炊き出しで機能した。



**最優秀グランプリ賞 ㈱ゼンショー(牛丼+豚汁)(右)**

多くの人員を配膳に配置し、順番を待つ想定被災者並びに来場被災者の方々からコミュニケーションを賞賛された。また牛丼プラス1品の心配りが、避難所で偏る栄養摂取状況の避難者の気持ちに立った献立であったと判断された。

優秀グランプリ賞 ㈱リンガーハット(長崎ちゃんぽん)(中央)

炊き出しで提供された『長崎ちゃんぽん』は国産野菜を多分に使い、避難所での偏った食生活を軽減する一助になると判断した。また冷たい小雨に見舞われた想定被災者並びに来場被災者から『期待通りの温かい料理であった』と絶賛された。

優秀グランプリ賞 ㈱北日本吉野家(牛丼)(左)

その場に居ない被災者への提供も想定した容器対応、お子様の心を和ます動物の被り物対応等、避難所の実情を理解し、避難所の状況に応じた炊き出しを提供しようという意志が明確であったことに好感が持てた。